

2024年度

ITエンジニア科4年制
講義計画集

— 第2学年 —

氏名

船橋情報ビジネス専門学校

〒273-0005 船橋市本町7-12-16

電話:047-425-1051

2024年度 (令和6年度) 年間計画表 学生用

2024/3/14 現在

前期								後期															
4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月		3月	
1月	始業式	1水	水4回	1土		1月	月12回	1木	オープンキャンパス	1日		1火	火4回	1金	金8回	1日		1水	元旦	1土		1土	
2火		2木	木4回	2日		2火	火12回	2金		2月	休館日	2水	水4回	2土	漢字検定	2月	月10回	2木		2日		2日	
3水	新入生オリエンテーション	3金	憲法記念日	3月	月8回	3水	水13回	3土		3火	休館日	3木	木3回	3日	文化の日	3火	火12回	3金		3月	月15回	3月	
4木		4土	みどりの日	4火	火8回	4木	木13回	4日		4水	FJ合同合宿	4金	金4回	4月	振替休日	4水	水12回	4土		4火	↑火16回	4火	
5金	入学式	5日	こどもの日	5水	水9回	5金	金12回	5月		5木		5土		5火	火8回	5木	木12回	5日		5水	↓後期試験	5水	水16回
6土		6月	振替休日	6木	木9回	6土		6火		6金		6日		6水	水8回	6金	金13回	6月	↓	6木	↓	6木	木17回
7日		7火	月曜振替4回	7金	金8回 駅前C	7日		7水		7土		7月	月4回	7木	木8回	7土		7火	休館日	7金	追試	7金	卒業式
8月	前期スタート月1回	8水	水5回	8土		8月	月13回	8木		8日	後期スタート月1回	8火	火5回	8金	金9回 ひろえぼ船橋	8日		8水	水13回	8土		8土	
9火	火1回	9木	木5回	9日		9火	火13回	9金		9月		9水	水5回	9土		9月	月11回	9木	木13回	9日		9日	
10水	水1回	10金	金4回	10月	月9回	10水	水14回	10土	↑	10火	火1回	10木	木4回	10日		10火	火11回	10金	金14回	10月		10月	
11木	木1回	11土		11火	火9回	11木	木14回	11日	山の日	11水	水1回	11金	金5回	11月	月7回	11水	水11回	11土		11火	建国記念の日	11火	
12金	金1回	12日		12水	水10回	12金	金13回	12月	振替休日	12木	木1回	12土		12火	火9回	12木	木11回	12日		12水		12水	
13土		13月	月5回	13木	木10回	13土		13火	↑受付業務停止	13金	金1回	13日	国家試験	13水	水9回	13金	金10回	13月	成人の日	13木	卒業研究発表会	13木	
14日		14火	火5回	14金	金9回	14日		14水	↓	14土		14月		14木	木9回	14土		14火	火13回	14金	卒業研究発表会	14金	終業式
15月	月2回	15水	水6回	15土	県民の日	15月	海の日	15日		15日		15火	火6回	15金	金10回	15日		15水	月曜振替12回	15土		15土	
16火	火2回	16木	木6回	16日		16火	火14回	16金		16月	敬老の日	16水	水6回	16土		16月	月10回	16木	木14回	16日		16日	
17水	水2回	17金	金5回	17月	月10回	17水	水15回	17土		17火	火2回	17木	木5回	17日		17火	火11回	17金	金15回	17月		17月	
18木	木2回	18土		18火	火10回	18木	木15回	18日	↓	18水	水2回	18金	金6回	18月	月8回	18水	水12回	18土		18火		18火	
19金	金2回	19日		19水	水11回	19金	金14回	19月		19月	月曜振替2回	19土		19火	火10回	19木	木11回	19日		19水		19水	
20土		20月	月6回	20木	木11回	20土		20火	成績発表	20金	金2回	20日		20水	水10回	20金	金11回	20月	月13回	20木		20木	春分の日
21日	国家試験	21火	火6回	21金	金10回	21日		21水		21土		21月	月5回	21木	木10回	21土		21火	火14回	21金	在校生成績発表	21金	
22月	月3回	22水	水7回	22土		22月	月14回	22木		22日	秋分の日	22火	火7回	22金	金11回	22日		22水	水14回	22土		22土	
23火	火3回	23木	木7回	23日		23火	火15回	23金		23月	振替休日	23水	水7回	23土	勤労感謝の日	23月	月9回	23木	木15回	23日	天皇誕生日	23日	
24水	水3回	24金	金6回	24月	月11回	24水	水16回	24土		24火	火3回	24木	木6回	24日		24火	火12回	24金	金16回	24月	振替休日	24月	
25木	木3回	25土		25火	火11回	25木	↑木16回	25日		25水	水3回	25金	金7回	25月	月9回	25水	水13回	25土	漢字検定	25火		25火	
26金	金3回	26日		26水	水12回	26金	↓前期試験	26月		26木	木2回	26土	若幸祭前日準備	26火	火11回	26木	木12回	26日		26水		26水	プレスクール
27土		27月	月7回	27木	木12回	27土	再試験発表	27火		27金	金3回	27日	若幸祭	27水	水11回	27金	↑	27月	月14回	27木		27木	
28日		28火	火7回	28金	金11回	28日		28水		28土		28月	若幸祭振替休日	28木	木11回	28土	↓受付業務停止	28火	火15回	28金	再試験発表	28金	
29月	昭和の日	29水	水8回	29土	漢字検定	29日		29水		29日		29月	若幸祭振替休日	29金	金12回	29日		29水	水15回			29土	
30火	火4回	30木	木8回	30日		30火	追試	30金		30月	月3回	30水	月曜振替6回	30土		30月	月10回	30木	木16回			30日	
		31金	金7回			31水		31土				31木	木7回			31火		31金	金17回			31月	

体育祭:6月末~7月頭

※台風など臨時休校が多い時は12月3週で対応

※年間講義回数
 月 30回
 火 31回
 水 32回
 木 32回
 金 32回

2学年

本校の教育方針	1
評価について／出欠席ルール	3
FJBネットID登録とメールアドレス	4
実習室・インターネット使用上のルール・マナー	4
個人情報保護に関する基本方針	5
教育目標と検定スケジュール	6
シスコネットワーキング演習	若井 誠文 7
ネットワーク構築演習 I・II	若井 誠文 8
サーバサイドプログラミング演習 I・II	小川 裕司 10
Web技術演習 I・II	花田 秀宣 12
検定対策応用A I・II	野本・大下 14
高度ネットワーク I・II	若井 誠文 16
検定対策応用C	大下 翼 18
CCNA対策講座	大下 翼 19
高度セキュリティ I・II	森田 秀明 20
検定対策応用B I・II	花田・大下 22
高度セキュリティ試験対策	森田 秀明 24
キャリアデザイン	野本 修平 25
国家試験対策応用	野本・大下 26
やってみなはれ演習応用 I・II	野本 修平 27

本校の教育方針

船橋情報ビジネス専門学校
校長 鳥居 高之

教育理念「若者をハッピーに」

これが本校の教育理念です。しかし幸せの形は人によって違いますし、卒業式で「はいどうぞ」と手渡しできるものではありません。在学中だけハッピーならよい訳でもありません。その後こそ重要です。従って私たち教職員の使命とは、学生のみなさんが職業人・社会人として豊かな人生を送るために、その土台作りのお手伝いをするという事になります。あくまでも主役は学生本人です。また社会に出てハッピーになる最低条件としては、大人として自立していなければなりません。その自立に欠かせないのが自律です。自律とは自分と闘うということです。ただ欲望や本能のままに行動するなら動物と同じです。すなわち、「自律 → 自立 → ハッピー」という順番です。私達もみなさんのお手伝いに全力を尽くしますが、自立した大人になる独力を忘れないでください。

勉強は教わるものではない

初年度のみ先生方は手取り足取り親切に教えてくれます。高校までに自分なりの勉強方法が身に付いていない人もいますからです。しかし2年目からは最後まで教えません。「まずは自分で考えてみなさい」と指導します。なぜでしょうか。将来みなさんが就職する会社に、そんな面倒見のよい上司や先輩がいるのでしょうか。みな仕事を抱えています。社会に出れば自分で勉強するのが当たり前です。質問・相談もできますが、自分で調べて考えるのが大原則です。その姿勢を在学中に身に付けてください。2年生になって先生の態度が変わるのはそのためです。急に厳しくなったと勘違いする学生がいますが、みなさんの真の成長を望んでいるのだということに気付いて欲しいです。

またスピード制限もしていません。もし授業の内容を既に理解していると感じる人は申し出てください。指導教員がそう判断すれば別メニューを設定します。クラス全体に歩調を合わせる必要はありません。どんどん前に進んでください！

人間教育の重視

人と接するのが苦手だからコンピュータの仕事に就きたいという学生がいます。大きな勘違いです。コンピュータの向こうには生身の人間がいます。どんなビジネスでも主役は人です。技術や資格ではなく人が仕事をするのです。そして人は一人では生きて行けない生き物です。仕事にせよ日常生活にせよ、常に他者との係わりの中で生きています。本校は単なる就職予備校ではないのです。人間教育を技術教育以上に重視しています。特に次の2つを心がけて欲しいです。

元気に明るく挨拶（あいさつ）

明るい人はみんなに好かれます。明るさの第一歩は、自分から元気に挨拶することです。そのような新入社員は職場でも愛されます。学校の先生方や来校されるお客様に練習台になっていただき、どんどん自分から挨拶しましょう。

3つの守り

本校がとても大切にしている3つの守りとは、「時間を守る、約束を守る、ルールを守る」です。単純ですが、当たり前のことを当たり前にやるのは実は大変なことです。自律できない人は自分と闘えません。つまり自立もできません。

「ルールを守る」に関しては考えて欲しいことがあります。学校生活だけでなく今後の生き方にも係わることです。ルールや法律を守るのは、叱られない罰せられないためでしょうか。世の中を見渡すと、法に触れなければいい、見つからなければいい、と考える者もいます。真の大人になり損ねた、自己中心のニセ大人です。みなさんには、「そんなことをしたら人として、大人として恥ずかしい」と自分を律して行動できる、良識ある職業人・社会人になって欲しいと願っています。以下校内のルールやマナーについて、少し補足しておきます。

通学

- (1) バイク・自動車通学全面禁止。
- (2) 自転車は学生課に登録し所定の駐輪場所を利用。

エレベーター

- (1) 学生はドアの注意書きに従うこと。下りは全面禁止。
- (2) 授業開始前および終了後の5分間は使用禁止。(教員優先)
- (3) 3号館は全面使用禁止。

禁煙

教職員、学生、成年、未成年者にかかわらず校内及び天沼公園・学校周辺は全面禁煙。

※船橋駅前から本校までの路上喫煙は条例により禁止され罰金の対象です

交通ルール

3号館前の大通りは横断絶対禁止。過去に死亡事故あり。横断歩道を使うこと。

重大なルール違反やマナー違反をした場合は、校長面接の上、停学や退学処分になることもありますので、学生の本分を守り勉学や学校生活に励んでください。なお本校では、学生が直接メールを校長宛に出すことができます。何か要望や相談があれば、いつでもメールしてください。 takatorii@mitsuhashi.ac.jp

以上

評価について

- (1) 評価とは成績証明書にS～Dで表現され記載される、その科目の最終的な成績のことを指す。
- (2) 評価は、合計点を用いて算出する。合計点とは、定期試験の素点に授業態度や出席状況、課題提出等の平常点を合計して算出したものである。

評価は以下の基準を用いる。(点または%)

S	90以上
A	80～89
B	50～79
C	40～49
D	39以下

- (3) 評価Dの者は、単位未修得者として処理される。
- (4) 評価Dの者には所定の手続きの後、再試験を実施する。ただし、再試験は特別の場合を除き、レポートに代替する。再試験に合格した場合その科目の評価はCとする。(特別な努力が認められたものは、B評価になることもある。)

GPA(Grade Point Average)

GPAとは、学生の成績の平均値を表したもので学期ごとにGPAを算出する。算出方法は以下の通り科目の評価(S～Dの5段階)に応じて、4.0～0.0の得点(GP)を設定し、科目ごとの得点(GP)に科目の単位数をかけた値を全履修科目分合算し、その値を履修科目の総単位数で割り、少数点第二位を四捨五入したものをGPAとする。

なお、GPAを算出するタイミングは各学期の成績発表時点とする。その時点で評価がDの科目のGPは、後日再試験に合格していても0.0となる。

$GPA = \frac{【GP \times 履修科目の単位数】の合計}{履修科目の総単位数}$

出欠席ルール

- (1) 遅刻3回で欠課1回、欠課6回(1年生はSHR分の遅刻1回を含む)で1日の欠席とみなし、次の条件で換算する
 - ・SHRの遅刻及び欠席で「遅刻1」※SHRは1年生のみ
 - ・授業開始15分までの入室で「遅刻1」
 - ・授業開始15～45分までの入室で「欠課1」
 - ・授業開始45～60分までの入室で「欠課1+遅刻1」
※90分授業の前半45分の欠課1、後半15分までの遅刻1という考え方でカウントする
 - ・授業開始60分以降の入室で「欠課2」
- (2) 年間55日の欠席で進級停止、退学勧告。
- (3) 交通機関の乱れによる遅刻の場合は「遅延証明をもらう」。ただしバスは適用外。

レベル	欠席日数	学校側からのアクション	備考
1	無断欠席	担任が自宅へ電話する	
2	累積10日欠席	自宅へ警告書を郵送する	警告書の郵送は累積10日になった時点で行う。
3	累積25日欠席	校長面接を行う	警告書の郵送は累積25日になった時点で行う。
4	累積40日欠席	校長面接において「退学警告」を行う	保護者同伴で行う。
5	累積50日欠席	校長面接において「最終警告」を行う	同上
6	累積55日欠席	①自宅へ退学勧告通知書を郵送する ②掲示板に名前を張り出す	退学を勧告する。

※「退学勧告」とは・・・1ヶ月以内に退学届けを提出すれば「自主退学」扱いとなります。以後は「強制退学処分」とします。

卒業認定

以下の条件に基づき学校長と教職員による卒業判定会議を経て学校長に認められた者について卒業を認定する

- (1) 履修した全ての科目において単位修得していること
- (2) 原則として各年度において年間55日以上欠席がないこと

FJBネットID登録とメールアドレス

1. ユーザID登録について

本校では、学生1人ひとりにユーザIDを発行しております。このIDでログインすると、学校内のネットワーク環境が利用できます。課題の保存、教材の受け渡し、メールでのコミュニケーションなどに活用して下さい。

2. メールアドレスについて

(1) 科によってメールアドレスが設定されています。

詳細は担任から説明があります。

(2) 「FJBインターネット&イントラネット」画面の「先生へのメール」をクリックして電子メールを活用して下さい。

(3) Webメールでの各個人に与えられている容量は50MBまでです。整理せずに企業からの大切なメールを受理できないケースがありました。不必要なメールはこまめに消去してください。

3. 緊急連絡について

クラスの諸連絡、台風や大雪等の休校等の連絡はグループコミュニケーションツールを使用します。(スマートフォンでも使用可能)各自、常に最新の投稿を確認するようにしてください。投稿を確認していない場合、自己責任です。またツールを使用する環境がない場合は担任に申し出てください。

実習室・インターネット使用上のルール・マナー

1. 実習室の放課後開放について

放課後、午後6時まで実習室を開放します。開放時間中に清掃(清掃時間を入り口に掲示)が入ります。その際は一度退出をお願いします。気持ちよく使えるよう、ご協力ください。

2. 実習室に、飲食物は持ち込んではいけません

パソコンは精密な電子機械です。水、粘着質の糖分、細かなゴミ、小さな金属物などを嫌います。実習室では、飲食行為も持ち込みも、厳禁です。

3. 本校のパソコンに、ゲーム(その他ソフト)をインストールしてはいけません

雑誌の付録のCD-ROMを持ち込んだり、インターネットでダウンロードしたりして、ゲームなどのソフトを本校のパソコンにインストールしてはいけません。

4. USBなどの記憶媒体は必ずウイルスチェックをするようにして下さい

記憶媒体を本校で使用する場合は、監督の先生に申し出てウイルスチェックをしてもらって下さい。その後、許可します。

5. 実習ファイルを保存するための領域をIドライブに用意してあります

必要なファイルのみ保存し、常に整理を心がけてください。ゲームファイル、過度な容量のファイルの保存を禁止します。(卒業研究等、必要な場合を除く)

6. インターネットを利用して、画像、音楽などを不正使用してはいけません

画像・音楽データなどはすべて、著作権があります。さらに、人物の写真には肖像権、アイドルの写真にはパブリシティ権があります。個人的な利用の範囲を超えて、使用してはいけません。HPやブログに貼り付けることはこれらの権利の侵害で、犯罪行為です。

7. インターネットに、非常識な書き込みをしてはいけません

インターネットの世界は、限られた若者のギャグやシャレの場ではありません。善意ある人達の、世界的に開かれた場です。匿名性を利用した破廉恥な書き込みは、卑怯者の行為です。一見匿名ですが、アクセス記録は残りますから、必ず追跡されます。

以上の約束が守れない場合は、指導の対象となります。

また、悪質な場合は、停学・退学を含めた処置を検討します。

学校法人三橋学園 船橋情報ビジネス専門学校
個人情報保護に関する基本方針（プライバシーポリシー）

船橋情報ビジネス専門学校

船橋情報ビジネス専門学校は、教育機関としての社会的責任を果たすために、以下の個人情報保護方針(プライバシーポリシー)を定め、教職員およびその他の関係者に周知徹底し、これを実行します。

1. 個人情報の取り扱いについては、教育上または業務上必要な範囲内において利用目的をできるだけ特定した上で、権限を与えられた者のみに許可します。
2. 個人情報に対する不正アクセス、紛失、破壊、改ざんおよび漏えい等を防止するために、適切な安全対策を講じます。
3. 取得した個人情報は、以下の目的に利用します。
 - (1) 本校の授業、検定試験、行事等の通知・連絡・管理を行うため
 - (2) 就職指導および就職活動支援を行うため
 - (3) 入学相談および募集活動を行うため
 - (4) 入学選考試験業務を行うため
 - (5) 各種証明書等の発行業務を行うため
 - (6) 上記のほか、教育上必要と判断される業務や活動を行うため
4. 本校は以下のような場合において、必要とされる範囲内で個人情報を関係者または第三者に提供もしくは公開することがあります。
 - (1) 在学生の保護者に対し、本人の学業成績、出欠席状況、資格取得状況等の提供
 - (2) 在学生もしくは卒業生の出身校に対し、本人の出欠席状況、資格取得状況、就職状況等の提供
 - (3) 学内での定期試験合格者、資格取得者、就職内定者情報等の公開
 - (4) 就職指導室における、在学生もしくは卒業生の就職先、就職活動記録等の公開
 - (5) 本校への入学希望者に対する、在学生もしくは卒業生の就職または就職内定先情報および、学校案内や本校ホームページに記載されている情報等の提供
 - (6) 上記のほか、本校の教育上もしくは業務上必要と判断される場合
5. 上記以外の利用目的で個人情報を収集する場合は、別途本人および保護者に通知します。
6. 以上のように、本校による関係者および第三者への個人情報の提供は、教育上もしくは業務上必要であると判断した上で行っておりますが、希望しない場合は所定の手続による請求をすることで停止できます。

個人情報の開示、訂正、利用停止の請求および取り扱いに対する問い合わせは下記までお願いします。

校長 鳥居 高之
047-425-1051
takatorii@mitsuhashi.ac.jp

2024年度 教育目標と検定スケジュール

2年生

ITエンジニア科4年制

<方針>

- ①企業に役立つ高度な人材及び良き社会人としての成長を目指す
 - ②プログラミング,設計技法に加え、ネットワーク,セキュリティの知識を習得し、多様な資格取得にチャレンジする
 - ③オブジェクト指向の基礎に留まらず、Webプログラミング技術を習得する
- 1年次:
- ・アルゴリズムの授業に力を入れ、プログラミング力を高める
 - ・基本情報技術者試験の合格を目指す
- 2年次:
- ・シスコ技術者認定合格を目指し、ネットワーク技術を習得する
 - ・自力でプログラムを組める力を身に付ける
- 3年次:
- ・システム開発に取り組み、システムエンジニア・プログラマの実務に意識を高め、就職活動に備える
 - ・知識だけでなく他人と共に働く力や自ら考え行動する力の向上を図る
- 4年次:
- ・卒業研究を通じて、技術力に加え、プレゼンテーション能力を身に付ける

教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・システム開発技術、ネットワーク技術、サーバ構築技術の習得 ・経済産業省認定情報処理技術者試験、シスコ技術者認定試験の取得 ・システム構築に必要な論理的思考能力の向上
目標資格	<ul style="list-style-type: none"> ・経済産業省基本情報技術者試験 ・経済産業省応用情報技術者試験 ・経済産業省情報処理安全確保支援士試験 ・CCNA ・経済産業省高度情報技術者試験
1年次進級条件(資格)	・ITパスポート試験
2年次進級条件(資格)	・MOS Excel
卒業条件(資格)	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字検定3級 ・ジョブパス3級

2学年

3学年

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月
1	経済産業省 基本情報技術者試験	→	→																							
2	経済産業省 応用情報技術者試験	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
3	経済産業省 高度情報技術者試験	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
4	CCNA	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→												
5	漢検3級										☆					☆					☆		☆			
6																										
7																										
8																										
9																										
10																										

科目	シスコネットワークング演習	分類	専門、必修科目
担当	若井 誠文		
テキスト (出版社)	本校のオリジナルテキスト シスコ技術者認定教科書CCNA完全合格テキスト&問題集【対応試験】200-301(翔泳社)		
参考資料	-		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	6
	50%	0%	0%	0%	0%	50%	100%		

1. 授業の概要

シスコ・ネットワークングアカデミーのカリキュラムをベースに、ネットワークエンジニアもしくはネットワークインフラに詳しいシステムエンジニアとして必要とされる知識とスキルを身に付ける。

2. 授業の目標(検定取得など)

シスコ技術者認定試験(CCNA)では、ネットワークの基礎知識と専門スキルが求められる。国家試験のネットワーク分野との親和性も非常に高いので、CCNAの合格を目指して学習して欲しい。

3. 注意点・要望

基本情報技術者試験や応用情報技術者試験のネットワーク分野と比べると、学習すべき知識とスキルが幅広い。基礎を疎かにせず、復習を重点的にして、分からないところはその日のうちに解決するように心掛けること。

4. 関連科目

ネットワーク構築演習 I

週	テーマ	内容
1	導入 ネットワークの基礎知識(1)	CCNA試験合格までのスケジュール トラフィック、スループット、帯域幅などネットワークの基礎用語の確認
2	ネットワークの基礎知識(2)	ネットワークの基礎とOSIモデル、MACアドレス、フレームの書式と役割、UTPケーブルと光ファイバケーブル、コリジョンドメインとコリジョン、CSMA/CD方式
3	ネットワークの基礎知識(3)	パケットの形式、IPアドレス、サブネット計算、静的アドレッシング、ICMP、ARP、ルーティングプロトコル
4	ネットワークの基礎知識(4)	TCPとUDP、コネクション型通信、アプリケーションプロトコル
5	ネットワークデバイスの管理 ルーティングの基礎	CDP、LLDP、Telnet、パスワードリカバリ、NTP スタティック・ダイナミックルーティング、アドミニストレーティブディスタンス
6	VLSMと経路集約 インターネット接続	VLSMと経路集約 DHCP、DHCPリレーエージェント
7	アクセスリスト NATとPAT	アクセスリスト NATとPAT
8	VLANとVLAN間ルーティング	VLAN、VTP、VLAN間ルーティング、レイヤ3スイッチ
9	STP ファーストホップ冗長化	STP HSRP、VRRP、GLBP
10	OSPF	OSPF
11	Etherchannel PoE	Etherchannel PoE
12	QoS IPv6	QoS IPv6
13	WANサービスとVPN クラウドサービス	WAN回線の種類、VPN クラウドサービス
14	ネットワーク設計モデル ワイヤレスLAN	Cisco3階層モデル、Cisco2階層モデル、無線LANの特徴、無線チャネル、WLC
15	セキュリティ ネットワークの自動化とSDN	利用者に向けたセキュリティ、様々な攻撃手法、マルウェア ステートフルインスペクション機能、AAA、SDN、ネットワークの自動化
16	前期試験期間	効果測定

備考

IT業界でネットワークエンジニアを経験した教員が、その経験に基づいた講義を行う

科目	ネットワーク構築演習 I	分類	専門、必修科目
担当	若井 誠文		
テキスト (出版社)	本校のオリジナルテキスト シスコ技術者認定教科書CCNA完全合格テキスト&問題集【対応試験】200-301(翔泳社)		
参考資料	各授業内でプリントを配布		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	2
	0%	0%	70%	0%	0%	30%	100%		

1. 授業の概要

Cisco社が提供しているシミュレータソフト(Packet Tracer)を利用し、L2、L3レベルでの簡単なネットワークの構築、およびトラブルシューティングを行う。

2. 授業の目標(検定取得など)

CCNAのシミュレーション問題を想定し、資格試験に合格できるレベルのネットワーク構築、トラブルシューティングが行える技術習得を目指す。

3. 注意点・要望

エンジニアとしての素養をつける良いタイミングなので、まずは自分一人で「なぜ？」を繰り返しながら対応を進めること。シスコネットワーク演習で学習したコマンドを沢山叩くことで、頭ではなく身体で覚えるように意識して欲しい。

4. 関連科目

シスコネットワーク演習、CCNA対策講座

週	テーマ	内容
1	ガイダンスとシミュレータソフトの紹介	授業の意義、評価方法、その他カリキュラム等の説明 シミュレータソフトの利用方法等の説明
2	NWの知識振り返り	IPアドレス計算、ルーティングに関する復習のため基礎テストを実施
3	シミュレータソフト操作方法 コマンドの習得	シミュレータソフトの操作方法を説明 NWの疎通確認、設定確認コマンドについて(ICMP、showコマンド)
4	スタティックルート	スタティックルートを利用したNWの構築 設定確認コマンドについて
5	ダイナミックルート	ルーティングプロトコル(RIPv2)を利用したNWの構築 設定確認コマンドについて
6	showコマンド	showコマンドからの読み取り、運用系コマンドについて(copy 等)
7	パスワード設定	ネットワーク機器上でのパスワード設定 リモート接続時の注意点等
8	デフォルトルート	デフォルトルート等を用いたNWの構築
9	アクセスリスト	アクセスリストの仕組み、設定を実施 トラブルシューティングの実施
10	NAT	NATの設定、確認 各種showコマンドからの読み取り
11	DHCP	DHCPサーバ、クライアントの設定、確認 各種showコマンドからの読み取り
12	NTP	NTPサーバ、クライアントの設定、確認 各種showコマンドからの読み取り
13	VLAN	VLANを利用したネットワーク構築
14	CCNA対策(1)	CCNA対策用の実習課題の実施(総合問題)
15	CCNA対策(2)	CCNA対策用の実習課題の実施(総合問題)
16	前期試験期間	-

備考

ネットワークエンジニア、社内SE(インフラ)の経験者がその経験を活かし講義を行う

科目	ネットワーク構築演習Ⅱ	分類	専門、必修科目
担当	若井 誠文		
テキスト (出版社)	本校のオリジナルテキスト シスコ技術者認定教科書CCNA完全合格テキスト&問題集【対応試験】200-301(翔泳社)		
参考資料	各授業内でプリントを配布		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	2
	0%	0%	70%	0%	0%	30%	100%		

1. 授業の概要

Cisco社が提供しているシミュレータソフト(PacketTracer)を利用し、L2、L3レベルでの簡単なネットワークの構築、およびトラブルシューティングを行う。また、後半では各種シナリオを用意し、実際のNW提案に関するグループワークを行う。

2. 授業の目標(検定取得など)

企業内ネットワーク管理者としての基礎知識をつける。また運用を意識したネットワーク構築の基礎を学ぶ。

3. 注意点・要望

CCNA取得者レベルの技術知識を要するので、しっかり前期の内容を復習しておくこと。

4. 関連科目

シスコネットワークキング演習、CCNA対策講座

週	テーマ	内容
1	前期授業の復習(1)	前期演習内容の振り返りを踏まえたトラブルシューティングを実施
2	前期授業の復習(2)	前期演習内容の振り返りを踏まえたトラブルシューティングを実施
3	CCNA対策(1)	CCNA試験内容に準じたNW構築、トラブルシューティング(VTP)
4	CCNA対策(2)	CCNA試験内容に準じたNW構築、トラブルシューティング(VLAN)
5	CCNA対策(3)	CCNA試験内容に準じたNW構築、トラブルシューティング(ポートセキュリティ)
6	CCNA対策(4)	CCNA試験内容に準じたNW構築、トラブルシューティング(L3スイッチ)
7	CCNA対策(5)	CCNA試験内容に準じたNW構築、トラブルシューティング(OSPF)
8	CCNA対策(6)	CCNA試験内容に準じたNW構築、トラブルシューティング(EIGRP)
9	CCNA対策(7)	CCNA試験内容に準じたNW構築、トラブルシューティング(拡張ACL)
10	CCNA対策(8)	CCNA試験内容に準じたNW構築、トラブルシューティング(NAT)
11	CCNA対策(9)	CCNA試験内容に準じたNW構築、トラブルシューティング(L3スイッチを利用したルーティング)
12	CCNA対策(10)	CCNA試験内容に準じたNW構築、トラブルシューティング(L3スイッチとルータを利用したルーティング)
13	CCNA対策(11)	CCNA試験内容に準じたNW構築、トラブルシューティング(複合総合問題と新出題傾向)
14	CCNA対策(12)	CCNA試験内容に準じたNW構築、トラブルシューティング(複合総合問題と新出題傾向)
15	CCNA対策(13)	CCNA試験内容に準じたNW構築、トラブルシューティング(複合総合問題と新出題傾向)

備考

ネットワークエンジニア、社内SE(インフラ)の経験者がその経験を活かし講義を行う

科目	サーバサイドプログラミング演習 I	分類	専門、必修科目
担当	小川 裕司		
テキスト (出版社)	スッキリわかるサーブレット&JSP入門 第4版(インプレス)		
参考資料	プリント教材		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	4
	40%	0%	30%	0%	0%	30%	100%		

1. 授業の概要

Javaプログラミングの実践的な知識を学び、アプリケーション開発の基礎を身に付ける。

2. 授業の目標(検定取得など)

- (1) Javaからデータベースに接続しデータを登録、取得、更新、削除する操作する方法を学習する。
- (2) サーブレット/JSPの基礎を学習する。

3. 注意点・要望

- (1) 積み上げによる学習が大事なので、基礎をおろそかにせず、一つひとつの技術を確実に身に付けること。
- (2) 自らの手でプログラムを組み、頭だけでなく体で技術を身に付けること。

4. 関連科目

Web技術演習 I、Web技術演習 II、サーバサイドプログラミング演習 II

週	テーマ	内容
1	オリエンテーション 復習	授業の目標、進め方及び評価方法 Java構文とオブジェクト指向の復習
2	例外処理(1)	例外処理の概要、利点、実装方法(1)
3	例外処理(2)	例外処理の概要、利点、実装方法(2)
4	コレクション	コレクションクラスの概要、利点、実装方法
5	課題(1)	課題作成
6	SQL復習	MySQL開発環境準備 基本的なSQLの復習
7	データベース連携(1)	JDBC、Javaとデータベースの連携方法
8	データベース連携(2)	DTOとDAO
9	課題(2)	課題作成
10	データベース連携(3)	セキュアプログラミング
11	データベース連携(4)	データベースの更新処理(1)
12	データベース連携(5)	データベースの更新処理(2)
13	課題(3)	課題作成
14	サーブレット	サーブレットの基礎
15	JSP	JSPの基礎
16	前期試験期間	効果測定

備考

Javaのシステム開発に携わった経験のある教員が経験に基づいた演習指導を行う

科目	サーバサイドプログラミング演習Ⅱ	分類	専門、必修科目
担当	小川 裕司		
テキスト (出版社)	スッキリわかるサーブレット&JSP入門 第4版(インプレス)		
参考資料	プリント教材		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	4
	0%	10%	50%	0%	0%	40%	100%		

1. 授業の概要

MVCモデルを用いてWebアプリケーションを開発する技術を身に付ける。

2. 授業の目標(検定取得など)

MVCモデルを用いたWebアプリケーションの開発技術を習得し、エンジニアとしての能力向上を目指す。

3. 注意点・要望

- (1)自らの手でプログラムを組み、頭だけでなく体で技術を身につけること。
- (2)2年前期までに学習したJavaの内容はしっかり復習し、理解しておくこと。

4. 関連科目

Web技術演習Ⅰ、Web技術演習Ⅱ、サーバサイドプログラミング演習Ⅰ

週	テーマ	内容
1	オリエンテーション 復習	授業の目標、進め方及び評価方法 サーブレットとJSPの復習
2	フォーム、リクエストパラメータ	フォームタグ、リクエストパラメータの取得
3	MVCモデル	MVCモデルの仕組み、フォワード、リダイレクト
4	リクエストスコープ	リクエストスコープ、JavaBeans
5	課題(1)	課題の作成
6	セッションスコープ	セッションスコープ
7	課題(2)	課題の作成
8	データベース連携(1)	Webアプリで検索機能を実装する
9	データベース連携(2)	Webアプリで登録機能を実装する
10	データベース連携(3)	Webアプリで更新機能を実装する
11	データベース連携(4)	Webアプリで削除機能を実装する
12	課題(3)	課題の作成
13	最終課題(1)	チームでWebアプリを実装する
14	最終課題(2)	チームでWebアプリを実装する
15	最終課題(3)	チームでWebアプリを実装する
16	プレゼンテーション	チームで作成したWebアプリのプレゼンテーション 振り返り、レポート作成
17	後期試験期間	-

備考

Javaのシステム開発に携わった経験のある教員が経験に基づいた演習指導を行う

科目	Web技術演習 I	分類	専門、必修科目
担当	花田 秀宣		
テキスト (出版社)	いちばんやさしいHTML5&CSS3の教本(インプレス)		
参考資料	プリント教材		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	4
	0%	0%	50%	0%	0%	50%	100%		

1. 授業の概要

Webの概要と構築に必要なHTML及びCSS技術を学習する。

2. 授業の目標(検定取得など)

HTML、CSSの基礎を扱うことができるようになる。
Webデザインやサイトの作成が一人でできるようになる。

3. 注意点・要望

毎時間、新しい技術を学習するため、欠席をしないこと。

4. 関連科目

サーバサイドプログラミング演習 I

週	テーマ	内容
1	オリエンテーション Webサイトの作成準備	Webサイトが表示される仕組み、URL、Webサイトに使われるファイルの種類 Webサイトのファイル・フォルダ構造、Webサイトの制作環境を整える
2	HTMLの基礎知識とマークアップ	HTMLとは、HTMLの基本構造、ディレクトリとパス
3	HTML文書の設計(1)	ヘッダーとグローバルナビゲーション
4	HTML文書の設計(2)	メインエリアとパンくずリスト
5	HTML文書の設計(3)	サイドバーとフッター
6	テーブル	テーブルを作成する、アクセシビリティを考慮したテーブル テーブルのデザインバリエーション
7	フォーム	フォームとデータを送受信する仕組み、さまざまなフォーム部品 標準的なフォームの例
8	CSSの基礎知識とページデザイン	CSSの基礎知識、CSSの書式、ページにCSSを適用する
9	テキストの装飾(1)	見出しや本文のフォントサイズの調整、読みやすい行間、 段落のテキストをリード文だけ太字にする、表示するフォントを設定する
10	テキストの装飾(2)	テキストの行揃えを変更する、2行目以降を1文字下げる テキスト色を変更する、見出しにサブタイトルをつける
11	リンクの設定と画像の表示	テキストにリンクを設定する、テキストリンクにCSSを適用する 画像を表示する、画像にリンクをつける、画像にテキストを回り込ませる
12	ボックスと情報の整理(1)	インラインボックスとブロックボックス、箇条書きのマークアップ リストを情報の整理に使う、上手なくDIVの使い方
13	ボックスと情報の整理(2)	CSSのボックスモデル、パディング、ボーダーの設定 2つ以上のボックスを並べる、ボックスのデザインを調整する
14	ページ全体のレイアウトとナビゲーション	実践的なコーディングのために知っておきたいCSSの知識、シングルコラムレイアウト、フレックスボックスを使ったコラムレイアウト、ナビゲーションメニューの作成
15	レスポンシブWebデザイン	レスポンシブWebデザインとは、レスポンシブWebデザインのサイトを作る
16	前期試験期間	-

備考

-

科目	Web技術演習Ⅱ	分類	専門、必修科目
担当	花田 秀宣		
テキスト (出版社)	いちばんやさしいJavaScriptの教本(インプレス)		
参考資料	プリント教材		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	4
	0%	0%	50%	0%	0%	50%	100%		

1. 授業の概要
動的にWebページの内容を書き換えるJavaScript技術を学習する。
2. 授業の目標(検定取得など)
JavaScriptの基礎を扱うことができるようになる。 動的なWebページの構築が一人でできるようになる。
3. 注意点・要望
毎時間、新しい技術を学習するため、欠席をしないこと。
4. 関連科目
サーバーサイドプログラミング演習Ⅱ

週	テーマ	内容
1	オリエンテーション JavaScriptの特徴	プログラムとは、JavaScriptの特徴とは、制作環境を整える
2	JavaScript基礎構文(1)	プログラムの記述場所、基本構文とエラー、関数、メソッド、データ
3	JavaScript基礎構文(2)	文字列、数値と計算、ダイアログボックスの種類
4	JavaScript基礎構文(3)	変数、JavaScriptファイルの作成、コードの書き方
5	関数の基礎	関数の概要、関数の定義、デフォルト引数、関数とスコープ
6	HTML/CSSの操作方法(1)	オブジェクトの概要、windowオブジェクト、DOM操作:内容の書き換え DOM操作:要素へのアクセス
7	HTML/CSSの操作方法(2)	DOM操作:CSSの変更、要素の追加、要素の削除
8	ユーザー操作対応	イベントの概要、イベント:click、keyup、タイマー処理
9	フォトギャラリーの作成	HTML操作の実践、CSSの実践、イベント処理の実践
10	jQuery基礎(1)	jQueryの概要、jQueryの準備、jQueryの基本構文
11	jQuery基礎(2)	セレクタとjQueryオブジェクト、jQueryのイベント、jQueryの実践
12	最終課題作成(1)	授業で学習した技術を使い、課題に取り組む
13	最終課題作成(2)	授業で学習した技術を使い、課題に取り組む
14	最終課題作成(3)	授業で学習した技術を使い、課題に取り組む
15	最終課題プレゼンテーション	最終課題で作成したシステムのプレゼンテーション
16	後期試験期間	-

備考	-
----	---

科目	検定対策応用A I	分類	専門、必修科目
担当	野本 修平・大下 翼		
テキスト (出版社)	-		
参考資料	-		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	4
	0%	20%	40%	0%	10%	30%	100%		

1. 授業の概要

各自資格取得に向けた目標設定を行い、それを達成するために演習を行う。

2. 授業の目標(検定取得など)

各自が定める検定の取得。

3. 注意点・要望

目標だけ定めて取り掛からないことは原則認めない。しっかりと自分に必要となる学習を進めること。

4. 関連科目

IT系科目全般

週	テーマ	内容
1	目標設定	各自が将来的に必要な資格を決め、目標設定のためのレポートを作成する
2	面談(1) 検定に向けた学習(1)	必要に応じてレポート内容のレビューと面談を行う(1) 各自が決めた検定に向けての学習(1)
3	面談(2) 検定に向けた学習(2)	必要に応じてレポート内容のレビューと面談を行う(2) 各自が決めた検定に向けての学習(2)
4	面談(3) 検定に向けた学習(3)	必要に応じてレポート内容のレビューと面談を行う(3) 各自が決めた検定に向けての学習(3)
5	効果測定(1)	取り決めた目標と実態とのギャップの振り返り、レポート作成(1)
6	面談(4) 検定に向けた学習(4)	必要に応じてレポート内容のレビューと面談を行う(4) 各自が決めた検定に向けての学習(4)
7	面談(5) 検定に向けた学習(5)	必要に応じてレポート内容のレビューと面談を行う(5) 各自が決めた検定に向けての学習(5)
8	面談(6) 検定に向けた学習(6)	必要に応じてレポート内容のレビューと面談を行う(6) 各自が決めた検定に向けての学習(6)
9	効果測定(2)	取り決めた目標と実態とのギャップの振り返り、レポート作成(2)
10	面談(7) 検定に向けた学習(7)	必要に応じてレポート内容のレビューと面談を行う(7) 各自が決めた検定に向けての学習(7)
11	面談(8) 検定に向けた学習(8)	必要に応じてレポート内容のレビューと面談を行う(8) 各自が決めた検定に向けての学習(8)
12	面談(9) 検定に向けた学習(9)	必要に応じてレポート内容のレビューと面談を行う(9) 各自が決めた検定に向けての学習(9)
13	面談(10) 検定に向けた学習(10)	必要に応じてレポート内容のレビューと面談を行う(10) 各自が決めた検定に向けての学習(10)
14	効果測定(3)	取り決めた目標と実態とのギャップの振り返り、レポート作成(3)
15	効果測定(4)	取り決めた目標と実態とのギャップの振り返り、レポート作成(4)
16	前期試験期間	-

備考	-
----	---

科目	検定対策応用AⅡ	分類	専門、必修科目
担当	野本 修平		
テキスト (出版社)	-		
参考資料	-		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	2
	0%	20%	40%	0%	10%	30%	100%		

1. 授業の概要

各自資格取得に向けた目標設定を行い、それを達成するために演習を行う。

2. 授業の目標(検定取得など)

各自が定める検定の取得。

3. 注意点・要望

目標だけ定めて取り掛からないことは原則認めない。しっかりと自分に必要となる学習を進めること。

4. 関連科目

IT系科目全般

週	テーマ	内容
1	目標設定	各自が将来的に必要な資格を決め、目標設定のためのレポートを作成する
2	面談(1) 検定に向けた学習(1)	必要に応じてレポート内容のレビューと面談を行う(1) 各自が決めた検定に向けての学習(1)
3	面談(2) 検定に向けた学習(2)	必要に応じてレポート内容のレビューと面談を行う(2) 各自が決めた検定に向けての学習(2)
4	面談(3) 検定に向けた学習(3)	必要に応じてレポート内容のレビューと面談を行う(3) 各自が決めた検定に向けての学習(3)
5	効果測定(1)	取り決めた目標と実態とのギャップの振り返り、レポート作成(1)
6	面談(4) 検定に向けた学習(4)	必要に応じてレポート内容のレビューと面談を行う(4) 各自が決めた検定に向けての学習(4)
7	面談(5) 検定に向けた学習(5)	必要に応じてレポート内容のレビューと面談を行う(5) 各自が決めた検定に向けての学習(5)
8	面談(6) 検定に向けた学習(6)	必要に応じてレポート内容のレビューと面談を行う(6) 各自が決めた検定に向けての学習(6)
9	効果測定(2)	取り決めた目標と実態とのギャップの振り返り、レポート作成(2)
10	面談(7) 検定に向けた学習(7)	必要に応じてレポート内容のレビューと面談を行う(7) 各自が決めた検定に向けての学習(7)
11	面談(8) 検定に向けた学習(8)	必要に応じてレポート内容のレビューと面談を行う(8) 各自が決めた検定に向けての学習(8)
12	面談(9) 検定に向けた学習(9)	必要に応じてレポート内容のレビューと面談を行う(9) 各自が決めた検定に向けての学習(9)
13	面談(10) 検定に向けた学習(10)	必要に応じてレポート内容のレビューと面談を行う(10) 各自が決めた検定に向けての学習(10)
14	面談(11) 検定に向けた学習(11)	必要に応じてレポート内容のレビューと面談を行う(11) 各自が決めた検定に向けての学習(11)
15	面談(12) 検定に向けた学習(12)	必要に応じてレポート内容のレビューと面談を行う(12) 各自が決めた検定に向けての学習(12)
16	後期試験期間	-

備考	-
----	---

ITエンジニア科4年制	2年
-------------	----

【前期】

科目	高度ネットワーク I	分類	専門、必選科目
担当	若井 誠文		
テキスト (出版社)	プリント教材 図解入門TCP/IP		
参考資料	-		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	2
	0%	0%	50%	0%	0%	50%	100%		

1. 授業の概要
ネットワークスペシャリスト試験および応用情報技術者試験のネットワーク分野を念頭に置き、ITの利活用には欠かすことのできないネットワークの基礎知識と、記述式試験の解答テクニックを身に付ける。講義→演習問題→問題解説の流れで進める。
2. 授業の目標(検定取得など)
ネットワークスペシャリスト試験および応用情報技術者試験のネットワーク分野における午後問題では、論理的思考力が求められる。解答に必要な基礎知識をベースに、筋道立てて文章を組み立てる能力を身に付ける。
3. 注意点・要望
国家試験の記述式問題は、何故その解答になるのか、「根拠」が非常に重要である。実際のエンジニアも、企画・要件定義・開発・運用・保守、どのフェーズにおいても「根拠」を求められるので、そこを意識して授業に臨むこと。
4. 関連科目
-

週	テーマ	内容
1	ガイダンス ネットワークの基礎知識(1)	シラバス説明、ネットワークスペシャリスト試験概要
2	ネットワークの基礎知識(2)	プロトコル、OSI参照モデル、ネットワークの種類
3	ネットワークの基礎知識(3)	IPアドレス、ドメイン名、ルーティング、TCP/IP
4	ネットワークの基礎知識(4)	仮想化、VDI、クラウドコンピューティング、IoT
5	LANとWAN(1)	物理層、ネットワークトポロジ
6	LANとWAN(2)	データリンク層、VLAN
7	LANとWAN(3)	ネットワーク層、トランスポート層
8	LANとWAN(4)	無線LAN、フレームリレー
9	LANとWAN(5)	VPN、アクセス回線
10	インターネットの技術(1)	IPv4、IPv6、ルーティング
11	インターネットの技術(2)	TCP、UDP
12	インターネットの技術(3)	DNS、DHCP
13	インターネットの技術(4)	SMTP、POP3、IMAP4
14	インターネットの技術(5)	HTTP、FTP、Telnet
15	前期試験期間	-

備考	ネットワークエンジニア、社内SE(インフラ)の経験者がその経験を活かし講義を行う
----	--

ITエンジニア科4年制	2年
-------------	----

【後期】

科目	高度ネットワークⅡ	分類	専門、必選科目
担当	若井 誠文		
テキスト (出版社)	プリント教材 図解入門TCP/IP		
参考資料	-		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	4
	0%	0%	50%	0%	0%	50%	100%		

1. 授業の概要
ネットワークスペシャリスト試験および応用情報技術者試験のネットワーク分野を念頭に置き、ITの利活用には欠かすことのできないネットワークの基礎知識と、記述式試験の解答テクニックを身に付ける。講義→演習問題→問題解説の流れで進める。
2. 授業の目標(検定取得など)
ネットワークスペシャリスト試験および応用情報技術者試験のネットワーク分野における午後問題では、論理的思考力が求められる。解答に必要な基礎知識をベースに、筋道立てて文章を組み立てる能力を身に付ける。
3. 注意点・要望
国家試験の記述式問題は、何故その解答になるのか、「根拠」が非常に重要である。実際のエンジニアも、企画・要件定義・開発・運用・保守、どのフェーズにおいても「根拠」を求められるので、そこを意識して授業に臨むこと。
4. 関連科目
-

週	テーマ	内容
1	セキュリティ(1)	暗号化、認証システム、デジタル署名
2	セキュリティ(2)	マルウェア、サイバー攻撃
3	セキュリティ(3)	ファイアウォール、DMZ、プロキシ
4	セキュリティ(4)	リモートアクセス、SSL/TLS
5	セキュリティ(5)	VPN、CG、ISMS
6	信頼性設計(1)	RASIS、QoS
7	信頼性設計(2)	フォールトトレランス、耐障害性設計
8	信頼性設計(3)	バックアップ、ストレージ、RAID
9	信頼性設計(4)	syslog、NTP、SNMP
10	午後問題(1)	ネットワークスペシャリスト試験午後Ⅱ問題研究(1)
11	午後問題(2)	ネットワークスペシャリスト試験午後Ⅱ問題研究(2)
12	午後問題(3)	ネットワークスペシャリスト試験午後Ⅱ問題研究(3)
13	午後問題(4)	ネットワークスペシャリスト試験午後Ⅱ問題研究(4)
14	午後問題(5)	ネットワークスペシャリスト試験午後Ⅱ問題研究(5)
15	午後問題(6)	ネットワークスペシャリスト試験午後Ⅱ問題研究(6)
16	午後問題(7)	ネットワークスペシャリスト試験午後Ⅱ問題研究(7)
17	後期試験期間	-

備考	ネットワークエンジニア、社内SE(インフラ)の経験者がその経験を活かし講義を行う
----	--

科目	検定対策応用C	分類	専門、必選科目
担当	大下 翼		
テキスト (出版社)	-		
参考資料	-		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	2
	0%	0%	50%	0%	10%	40%	100%		

1. 授業の概要

各自資格取得に向けた目標設定を行い、それを達成するために演習を行う。

2. 授業の目標(検定取得など)

各自が定める検定の取得。

3. 注意点・要望

目標だけ定めて取り掛からないことは原則認めない。しっかりと自分に必要となる学習を進めること。

4. 関連科目

-

週	テーマ	内容
1	検定に向けた学習(1)	各自が決めた検定に向けての学習(1)
2	検定に向けた学習(2)	各自が決めた検定に向けての学習(2)
3	検定に向けた学習(3)	各自が決めた検定に向けての学習(3)
4	検定に向けた学習(4)	各自が決めた検定に向けての学習(4)
5	検定に向けた学習(5)	各自が決めた検定に向けての学習(5)
6	検定に向けた学習(6)	各自が決めた検定に向けての学習(6)
7	検定に向けた学習(7)	各自が決めた検定に向けての学習(7)
8	検定に向けた学習(8)	各自が決めた検定に向けての学習(8)
9	検定に向けた学習(9)	各自が決めた検定に向けての学習(9)
10	検定に向けた学習(10)	各自が決めた検定に向けての学習(10)
11	検定に向けた学習(11)	各自が決めた検定に向けての学習(11)
12	検定に向けた学習(12)	各自が決めた検定に向けての学習(12)
13	検定に向けた学習(13)	各自が決めた検定に向けての学習(13)
14	検定に向けた学習(14)	各自が決めた検定に向けての学習(14)
15	前期試験期間	-

備考

-

科目	CCNA対策講座	分類	専門、必選科目
担当	大下 翼		
テキスト (出版社)	本校のオリジナルテキスト シスコ技術者認定教科書CCNA完全合格テキスト&問題集【対応試験】200-301(翔泳社)		
参考資料	-		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	4
	0%	0%	50%	0%	10%	40%	100%		

1. 授業の概要

シスコ・ネットワークングアカデミーのカリキュラムをベースに、ネットワーク技術者(もしくはネットワークインフラに詳しいシステムエンジニア)として必要とされる知識と技能を修得する。

2. 授業の目標(検定取得など)

シスコ技術者認定試験(CCNA)の取得、ネットワークエンジニアに求められる高度な技術知識の習得。

3. 注意点・要望

CCNA試験は、国家試験と異なり合格に深い理解が求められる。
知識をあいまいなままにしないよう復習を実施。

4. 関連科目

ネットワーク構築演習Ⅱ

週	テーマ	内容
1	CCNA試験対策(1)	確認テスト、見極めの実施(1)
2	CCNA試験対策(2)	確認テスト、見極めの実施(2)
3	CCNA試験対策(3)	確認テスト、見極めの実施(3)
4	CCNA試験対策(4)	確認テスト、見極めの実施(4)
5	CCNA試験対策(5)	確認テスト、見極めの実施(5)
6	CCNA試験対策(6)	確認テスト、見極めの実施(6)
7	CCNA試験対策(7)	確認テスト、見極めの実施(7)
8	CCNA試験対策(8)	確認テスト、見極めの実施(8)
9	CCNA試験対策(9)	確認テスト、見極めの実施(9)
10	CCNA試験対策(10)	確認テスト、見極めの実施(10)
11	CCNA試験対策(11)	確認テスト、見極めの実施(11)
12	CCNA試験対策(12)	確認テスト、見極めの実施(12)
13	CCNA試験対策(13)	確認テスト、見極めの実施(13)
14	CCNA試験対策(14)	確認テスト、見極めの実施(14)
15	CCNA試験対策(15)	確認テスト、見極めの実施(15)
16	CCNA試験対策(16)	確認テスト、見極めの実施(16)
17	後期試験期間	-

備考

システムエンジニアとしての業務経験のある教員がその経験を活かして講義する

科目	高度セキュリティ I	分類	専門、必選科目
担当	森田 秀明		
テキスト (出版社)	オリジナル教材		
参考資料	-		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	4
	0%	0%	0%	50%	0%	50%	100%		

1. 授業の概要
情報処理安全確保支援士ならびに応用情報技術者試験のセキュリティ分野を念頭に置き、基礎知識と解答技術を身に着ける。 講義→演習問題→演習問題について解説という形で進行する。一部の演習問題は全員で解答を検討する。
2. 授業の目標(検定取得など)
応用情報技術者試験の午後問題(セキュリティ分野)で高得点を取れるだけの実力を身に着ける。 情報処理安全確保支援士の学習を開始するにあたり十分な知識を身に着ける。
3. 注意点・要望
演習問題は模範解答を覚えても力がつきません。必ず自分の頭で考え、正解できなくても良いので自分の言葉で答えを書くこと(空欄・無回答を作らない)。演習問題集を範囲とした確認テスト(期末)を行います。
4. 関連科目
高度セキュリティⅡ、高度セキュリティ試験対策

週	テーマ	内容
1	ガイダンス、ネットワークの基礎知識 情報セキュリティの概念	この教科について、情報処理安全確保支援士の試験制度、学習方法 ポート番号、NAPT、情報セキュリティの3要素、リスクマネジメント、BCP(事業継続計画)
2	情報セキュリティ関連機関・法規 脅威(1)	情報セキュリティ関連機関、CVSS、情報処理関連法規(特に不正競争防止法) マルウェアの種類、攻撃ツール
3	脅威(2)	C&Cサーバとコネクトバック通信、感染時の初動対応、マルウェア対策ソフト、マルウェアの特徴の把握、中間者攻撃、標的型攻撃、ドライブバイダウンロード・その他の攻撃手法
4	脆弱性対策 暗号化(1)	脆弱性診断、ゼロデイ攻撃、脆弱性修正プログラムの適用 共通鍵暗号と公開鍵暗号、危殆化、暗号アルゴリズム、暗号解読法、ハッシュ関数
5	暗号化(2)、無線LAN PKI(1)	レインボー攻撃とソルトの役割、無線LANの基礎、無線LANのセキュリティ PKIの構成要素、クライアント証明書、サーバ証明書
6	PKI(2) 認証とアクセスコントロール(1)	証明書の種類、署名の検証、証明書の失効、ルート認証局、コモンネームの検証 識別・認証・認可、アクセス権付与の原則、特権ID、アカウントの適切な管理、LDAP
7	認証とアクセスコントロール(2)	パスワードクラッキング、パスワード管理の留意点(利用者・管理者)、ワンタイムパスワード クライアント証明書による認証、RADIUS、リスクベース認証、生体認証、SSOとは、SAML
8	時刻認証 VPN、セキュリティアプライアンス(1)	時刻認証の基礎知識、プライベートネットワークとは、VPNとは、IPSec ファイアウォール、アクセスコントロールリスト、ファイアウォールで防げない攻撃
9	セキュリティアプライアンス(2) サーバセキュリティ(1)	運用管理セグメント、IDS、IPS、WAF、UTM サーバ全般のセキュリティ、Webサーバのセキュリティ、DNSサーバのセキュリティ
10	サーバセキュリティ(2) 電子メールのセキュリティ	プロキシサーバのセキュリティ、リバースプロキシ 電子メールプロトコル、オープンリレー防止、送信者認証、OP25B、送信ドメイン認証
11	ICカード・クレジットカード セキュアプログラミング	ICカードに対する脅威と要件、PINによるホルダ認証、耐タンパ製、PCI DSS XSS(格納型)、サニタイジング、SQLインジェクション、バッファオーバーフロー、その他の攻撃手法
12	物理セキュリティ ログ	入退室管理、ネットワークケーブルの保護 ログ管理の要点・目的・留意点、複数機器にまたがるログの分析、Syslog
13	インシデント対応 シンククライアント	インシデント対応手順、CSIRT、情報提供機関 シンククライアントの実現方法、VDI
14	モバイル環境 運用管理	モバイル端末における持ち出し管理規定、BYOD、盗難・紛失時のリスクと対応 スマートフォン、クラウドサービスの利用、デジタルフォレンジックス
15	監査 確認テスト	監査の種類、監査の独立性 確認テスト

備考	通信キャリアでネットワークエンジニアとして勤務していた教員が、セキュリティ技術について講義する
----	---

科目	高度セキュリティⅡ	分類	専門、必選科目
担当	森田 秀明		
テキスト (出版社)	オリジナル教材		
参考資料	-		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	4
	0%	0%	0%	50%	0%	50%	100%		

1. 授業の概要

情報処理安全確保支援士ならびに応用情報技術者試験のセキュリティ分野を念頭に置き、基礎知識と解答技術を身に着ける。
講義→演習問題→演習問題について解説という形で進行する。一部の演習問題は全員で解答を検討する。

2. 授業の目標(検定取得など)

応用情報技術者試験の午後問題(セキュリティ分野)で高得点を取れるだけの実力を身に着ける。
情報処理安全確保支援士の午後問題に着手できるだけの知識・解答テクニックを身に着ける。

3. 注意点・要望

演習問題は模範解答を覚えても力がつきません。必ず自分の頭で考え、正解できなくても良いので自分の言葉で答えを書くこと(空欄・無回答を作らない)。演習問題集を範囲とした確認テスト(期末)を行います。

4. 関連科目

高度セキュリティⅠ

週	テーマ	内容
1	ネットワークの基礎知識 脅威(1)	netstatコマンド ポリモーフィック型ウイルス、パッカー、DNSトンネリング
2	脅威(2) 暗号化	ARPスプーフィング、具体的なDos攻撃の手法、代表的なポートスキャンの手法 伝統的暗号アルゴリズム、DH鍵共有、選択平文攻撃、既知平文攻撃、ブロック暗号
3	PKI	RAとIA、デジタル証明書のフォーマット、デジタル署名の動作、HSTS
4	認証とアクセスコントロール(1)	Kerberos認証、エージェント型SSO、リバースプロキシ型SSO
5	認証とアクセスコントロール(2)	Oauth、認可コード横取り攻撃、PKCE、none値による検証
6	時刻認証	デジタル署名方式、アーカイビング方式、タイムスタンプの長期保存
7	VPN	インターネットVPNのプロトコル、IPsecのヘッダプロトコルと認証モード、SSH
8	サーバセキュリティ	GETメソッドとPOSTメソッド、セッション管理、フルサービスリゾルバとスタブリゾルバ CONNECTメソッド
9	電子メールのセキュリティ	電子メールの構造、電子メールエージェント
10	セキュアプログラミング	反射型XSS、DOM型XSS、OSコマンドインジェクション、DLLインジェクション
11	ログ	X-Forwarded-Forヘッダフィールドの使い方、HTTPのステータスコード
12	シンクライアント	VDIのトラフィックフロー・マルウェア感染・特殊な運用
13	IOT	IOTのセキュリティ、マルウェアMirai
14	運用管理	構成管理、CASB、内部不正対策
15	外部委託を行う場合のセキュリティ	開発・保守を外部委託する場合の留意点
16	問題演習	問題演習
17	確認テスト	確認テスト

備考

通信キャリアでネットワークエンジニアとして勤務していた教員が、セキュリティ技術について講義する

科目	検定対策応用B I	分類	専門、必選科目
担当	大下 翼		
テキスト (出版社)	-		
参考資料	-		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	4
	0%	0%	50%	0%	10%	40%	100%		

1. 授業の概要

各自資格取得に向けた目標設定を行い、それを達成するために演習を行う。

2. 授業の目標(検定取得など)

各自が定める検定の取得。

3. 注意点・要望

目標だけ定めて取り掛からないことは原則認めない。しっかりと自分に必要となる学習を進めること。

4. 関連科目

-

週	テーマ	内容
1	検定に向けた学習(1)	各自が決めた検定に向けての学習(1)
2	検定に向けた学習(2)	各自が決めた検定に向けての学習(2)
3	検定に向けた学習(3)	各自が決めた検定に向けての学習(3)
4	検定に向けた学習(4)	各自が決めた検定に向けての学習(4)
5	検定に向けた学習(5)	各自が決めた検定に向けての学習(5)
6	検定に向けた学習(6)	各自が決めた検定に向けての学習(6)
7	検定に向けた学習(7)	各自が決めた検定に向けての学習(7)
8	検定に向けた学習(8)	各自が決めた検定に向けての学習(8)
9	検定に向けた学習(9)	各自が決めた検定に向けての学習(9)
10	検定に向けた学習(10)	各自が決めた検定に向けての学習(10)
11	検定に向けた学習(11)	各自が決めた検定に向けての学習(11)
12	検定に向けた学習(12)	各自が決めた検定に向けての学習(12)
13	検定に向けた学習(13)	各自が決めた検定に向けての学習(13)
14	検定に向けた学習(14)	各自が決めた検定に向けての学習(14)
15	前期試験期間	-

備考

-

科目	検定対策応用BⅡ	分類	専門、必選科目
担当	花田 秀宣・大下 翼		
テキスト (出版社)	-		
参考資料	-		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	4
	0%	0%	50%	0%	10%	40%	100%		

1. 授業の概要

各自資格取得に向けた目標設定を行い、それを達成するために演習を行う。

2. 授業の目標(検定取得など)

各自が定める検定の取得。

3. 注意点・要望

目標だけ定めて取り掛からないことは原則認めない。しっかりと自分に必要となる学習を進めること。

4. 関連科目

-

週	テーマ	内容
1	検定に向けた学習(1)	各自が決めた検定に向けての学習(1)
2	検定に向けた学習(2)	各自が決めた検定に向けての学習(2)
3	検定に向けた学習(3)	各自が決めた検定に向けての学習(3)
4	検定に向けた学習(4)	各自が決めた検定に向けての学習(4)
5	検定に向けた学習(5)	各自が決めた検定に向けての学習(5)
6	検定に向けた学習(6)	各自が決めた検定に向けての学習(6)
7	検定に向けた学習(7)	各自が決めた検定に向けての学習(7)
8	検定に向けた学習(8)	各自が決めた検定に向けての学習(8)
9	検定に向けた学習(9)	各自が決めた検定に向けての学習(9)
10	検定に向けた学習(10)	各自が決めた検定に向けての学習(10)
11	検定に向けた学習(11)	各自が決めた検定に向けての学習(11)
12	検定に向けた学習(12)	各自が決めた検定に向けての学習(12)
13	検定に向けた学習(13)	各自が決めた検定に向けての学習(13)
14	検定に向けた学習(14)	各自が決めた検定に向けての学習(14)
15	検定に向けた学習(15)	各自が決めた検定に向けての学習(15)
16	検定に向けた学習(16)	各自が決めた検定に向けての学習(16)
17	前期試験期間	-

備考

-

科目	高度セキュリティ試験対策	分類	専門、任選科目
担当	森田 秀明		
テキスト (出版社)	オリジナル教材		
参考資料	-		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	1
	0%	50%	0%	0%	0%	50%	100%		

1. 授業の概要

情報処理安全確保支援士ならびに応用情報技術者試験のセキュリティ分野を念頭に置き、基礎知識と解答技術を身に着ける。
講義→演習問題→演習問題について解説という形で進行する。一部の演習問題は全員で解答を検討する。

2. 授業の目標(検定取得など)

情報処理安全確保支援士の受験に向けて、午後問題に着手できるだけの知識・解答テクニックを身に着ける。

3. 注意点・要望

レポートは「情報処理安全確保支援士受験までの学習スケジュール」の提出となります。成績評価上の配点の50%を占めるので未提出にならないように気を付けて下さい。

4. 関連科目

高度セキュリティ I

週	テーマ	内容
1	ネットワークの基礎知識 脅威(1)	netstatコマンド ポリモーフィック型ウイルス、パッカー、DNSトンネリング
2	脅威(2) 暗号化	ARPスプーフィング、具体的なDos攻撃の手法、代表的なポートスキャンの手法 伝統的暗号アルゴリズム、DH鍵共有、選択平文攻撃、既知平文攻撃、ブロック暗号
3	PKI	RAとIA、デジタル証明書のフォーマット、デジタル署名の動作、HSTS
4	認証とアクセスコントロール(1)	Kerberos認証、エージェント型SSO、リバースプロキシ型SSO
5	認証とアクセスコントロール(2)	Oauth、認可コード横取り攻撃、PKCE、none値による検証
6	時刻認証	デジタル署名方式、アーカイビング方式、タイムスタンプの長期保存
7	VPN	インターネットVPNのプロトコル、IPsecのヘッダプロトコルと認証モード、SSH
8	サーバセキュリティ	GETメソッドとPOSTメソッド、セッション管理、フルサービスリゾルバとスタブリゾルバ CONNECTメソッド
9	電子メールのセキュリティ	電子メールの構造、電子メールエージェント
10	セキュアプログラミング	反射型XSS、DOM型XSS、OSコマンドインジェクション、DLLインジェクション
11	ログ	X-Forwarded-Forヘッダフィールドの使い方、HTTPのステータスコード
12	シンクライアント	VDIのトラフィックフロー・マルウェア感染・特殊な運用
13	IOT	IOTのセキュリティ、マルウェアMirai
14	運用管理	構成管理、CASB、内部不正対策
15	外部委託を行う場合のセキュリティ	開発・保守を外部委託する場合の留意点
16	定期試験期間	定期試験期間

備考

通信キャリアでネットワークエンジニアとして勤務していた教員が、セキュリティ技術について講義する

科目	キャリアデザイン	分類	教養、必修科目
担当	野本 修平		
テキスト (出版社)	-		
参考資料	プリント教材		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	2
	30%	0%	50%	0%	0%	20%	100%		

1. 授業の概要

- (1)実社会でのビジネスシーンを題材に、どうすれば社会が求めるビジネスパーソンになれるのかを学習する。
(2)高いレベルで物事を考えられるビジネスパーソンを目指す。

2. 授業の目標(検定取得など)

- (1)社会人1年目に、周囲より頭一つ抜けた実務的なビジネススキルを身に付けること。
(2)社会人2年目以降についても1年目に意識したことを継続し、よりよい人生を送れるようにすること。

3. 注意点・要望

本授業は課題提出などについてはすべてメールで実施する。

4. 関連科目

-

週	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業ガイダンス 成績評価について
2	ビジネスメール	実践向けメールの使い方
3	目指すべくビジネスパーソン	目標を定め、自分の将来像を描写
4	仕事が早くなるツール(1)	紙とペンの有用性
5	仕事が早くなるツール(2)	コミュニケーションの前のコミュニケーション
6	仕事が早くなるツール(3)	シチュエーションを意識したコミュニケーション
7	仕事が早くなるツール(4)	作業における優先順位
8	仕事が早くなるツール(5)	議事録の作成とレビュー
9	IT業界を知る(1)	IT業界の契約方法と働き方
10	ビジネスシーンでの立ち振る舞い(1)	第一印象で評価は決まる
11	ビジネスシーンでの立ち振る舞い(2)	仕事の役割分担、責任範囲
12	IT業界を知る(2)	IT業界の企業を解説
13	モチベーションコントロール	言葉、環境による様々なコントロール方法
14	メンタルコントロール	IT業界で必要となるメンタル
15	目標設定と振り返り	現状理解と今後の目標設定
16	目標設定と振り返り	現状理解と今後の目標設定
17	後期試験期間	効果測定

備考

IT業界にてプロジェクトリーダーを5年以上経験する教員が講義を行う

科目	国家試験対策応用	分類	専門、必修科目
担当	野本 修平・大下 翼		
テキスト (出版社)	-		
参考資料	-		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	4
	0%	60%	0%	0%	10%	30%	100%		

1. 授業の概要

各自資格取得に向けた目標設定を行い、それを達成するために演習を行う。

2. 授業の目標(検定取得など)

各自が定める検定の取得。

3. 注意点・要望

目標だけ定めて取り掛からないことは原則認めない。しっかりと自分に必要となる学習を進めること。

4. 関連科目

IT系科目全般

週	テーマ	内容
1	検定に向けた学習(1)	各自が決めた検定に向けての学習(1)
2	検定に向けた学習(2)	各自が決めた検定に向けての学習(2)
3	検定に向けた学習(3)	各自が決めた検定に向けての学習(3)
4	検定に向けた学習(4)	各自が決めた検定に向けての学習(4)
5	検定に向けた学習(5)	各自が決めた検定に向けての学習(5)
6	検定に向けた学習(6)	各自が決めた検定に向けての学習(6)
7	検定に向けた学習(7)	各自が決めた検定に向けての学習(7)
8	検定に向けた学習(8)	各自が決めた検定に向けての学習(8)
9	検定に向けた学習(9)	各自が決めた検定に向けての学習(9)
10	検定に向けた学習(10)	各自が決めた検定に向けての学習(10)
11	検定に向けた学習(11)	各自が決めた検定に向けての学習(11)
12	検定に向けた学習(12)	各自が決めた検定に向けての学習(12)
13	検定に向けた学習(13)	各自が決めた検定に向けての学習(13)
14	検定に向けた学習(14)	各自が決めた検定に向けての学習(14)
15	検定に向けた学習(15)	各自が決めた検定に向けての学習(15)
16	後期試験期間	-

備考

-

科目	やってみなはれ演習応用 I	分類	教養、必修科目
担当	野本 修平		
テキスト (出版社)	-		
参考資料	-		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	2
	0%	0%	50%	0%	0%	50%	100%		

1. 授業の概要

様々な学校行事を題材に社会人としてのヒューマンスキル向上を目指す。

2. 授業の目標(検定取得など)

リーダー・フォロワー、提案、許容、協調などの資質向上を図る。

3. 注意点・要望

「モメていない」=真剣ではない証拠、「失敗していない」=チャレンジしていない証拠、社会に出る前に真の協調性を学んでほしい。

4. 関連科目

ビジネス関連科目全て

週	テーマ	内容
1	やってみなはれ演習の意義	授業ガイダンス(評価方法、授業構成) 各行事に対する役割分担、責任分界点を意識した行動の指針を立てる
2	役割分担	体育祭に向けた事前準備 (それぞれの役割分担、目標設定)
3	国家試験後の目標設定	国家試験後の各自の半年間の目標、レポート作成
4	問題意識(1)	各グループに分かれ、日常を題材としての問題提起を行う(1)
5	問題意識(2)	各グループに分かれ、日常を題材としての問題提起を行う(2)
6	論点整理と解決案(1)	各グループが考える問題についての論点整理を行う(1) 論点が整理できた状態であれば解決案の検討を行う(1)
7	論点整理と解決案(2)	各グループが考える問題についての論点整理を行う(2) 論点が整理できた状態であれば解決案の検討を行う(2)
8	論点整理と解決案(3)	各グループが考える問題についての論点整理を行う(3) 論点が整理できた状態であれば解決案の検討を行う(3)
9	論理的思考(1)	論理的に各グループが考える問題に対する解決策を発表する(1)
10	論理的思考(2)	論理的に各グループが考える問題に対する解決策を発表する(2)
11	論理的思考(3)	論理的に各グループが考える問題に対する解決策を発表する(3)
12	論理的思考(4)	論理的に各グループが考える問題に対する解決策を発表する(4)
13	論理的思考(5)	論理的に各グループが考える問題に対する解決策を発表する(5)
14	論理的思考(6)	論理的に各グループが考える問題に対する解決策を発表する(6)
15	論理的思考(7)	論理的に各グループが考える問題に対する解決策を発表する(7)
16	前期試験期間	-

備考	-
----	---

科目	やってみなはれ演習応用Ⅱ	分類	教養、必修科目
担当	野本 修平		
テキスト (出版社)	-		
参考資料	-		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	2
	0%	0%	50%	0%	0%	50%	100%		

1. 授業の概要

様々な学校行事を題材に社会人としてのヒューマンスキル向上を目指す。

2. 授業の目標(検定取得など)

リーダー・フォロワー、提案、許容、協調などの資質向上を図る。

3. 注意点・要望

「モメていない」=真剣ではない証拠、「失敗していない」=チャレンジしていない証拠、社会に出る前に真の協調性を学んでほしい。

4. 関連科目

ビジネス関連科目全て

週	テーマ	内容
1	後期演習内容ガイダンス	後期の行事、並びに就職活動を意識した活動計画の立案
2	能力の実践(1)	文化祭に向けた状況整理と今後のスケジュールすり合わせ
3	能力の実践(2)	各セクションに分かれて活動
4	能力の実践(3)	各セクションに分かれて活動
5	活動内容の評価(1)	活動内容の棚卸および評価
6	能力の実践(4)	各セクションに分かれて活動
7	能力の実践(5)	最終的な各セクションのすり合わせ
8	能力の実践(6)	各セクションに分かれて活動
9	活動内容の評価(2)	活動内容の棚卸および評価
10	社会人基礎力の向上(1)	自己啓発本の選定と購入
11	社会人基礎力の向上(2)	自己啓発本の読書
12	社会人基礎力の向上(3)	自己啓発本の読書
13	社会人基礎力の向上(4)	就職活動にむけてのアクション設定
14	社会人基礎力の向上(5)	就職活動にむけてのアクション設定
15	社会人基礎力の向上(6)	3年次における各自活動計画の取り決め
16	社会人基礎力の向上(7)	3年次における各自活動計画の取り決め
17	社会人基礎力の向上(8)	年間スケジュールを考慮した振り返りと計画実践

備考

-

